

子育てパパ向けの大人気イベントを企画運営

活動地域（新潟県柏崎市）

男性のプロフィール

氏名：大掛 隆さん

年齢層：若年層（20～30歳代）

活動概要：「柏崎オヤジ倶楽部～ぱぱだって～」代表。子育て世代を対象としたイベント等を企画して、父親の子育ての支援に取り組む。PTA役員としても活動し、男女共同参画の考え方を啓発。

活動開始のきっかけ

我が子を授かり、父親の子育てに関心。市からの誘いを受け、活動を開始

私が父親の子育て支援に取り組むようになったそもそものきっかけは、今から約10年前の30歳のころ、子どもが生まれ、市内を歩いていると、男性が子どもをおぶったりしている光景が気になるようになり、「男性の育児参加」というのを現実問題として意識するようになったからです。その光景を見て、「自分も負けず親バカになるう」と思いました。あとは、男性が育児をすると周囲から「えらいね」と褒められたりするので、「それもいいな」という気持ちもありました。

そのように思っていた時期に、市のかしわざき男女共同参画推進市民会議（以下、「市民会議」という）への入会の誘いを市から受けました。母が同会議のメンバーであった関係から私に声がかかり、その趣旨は「若い世代に男女共同参画の考え方を広めたい。その協力をしてほしい」というものでした。若年男性の育児参加に関心を持ち始めていたので、その趣旨に賛同し、市民会議への入会を決めました。

私が入会するまでは、市民会議が男女共同参画の事業として行っていたのは、40歳代以上の参加者向けの講話会や勉強会が主でした。私は、父親の子育てに関心を持っていたので、子育て世代の父親を支援するイベントを新たに起こそうと、企画づくりに自ら取り組むようになりました。

活動の内容

子育てパパ向けのイベントを定期的に企画し、実施

「柏崎オヤジ倶楽部～ぱぱだって～」を男性メンバー3名と立ち上げて、約10年にわたり、主に子育てパパ向けのイベントを定期的の実施しています。イベントは年3回ほど開催します。

特に、妻が出かけていても、子どもの面倒を見ながら簡単にできる料理をマスターすることを目的として、「父親だけの料理教室」や「父子での料理教室」を開催することが多くなっています。料理以外では、「父子と楽しむ七夕祭り」などがあります。

イベントの参加率は、募集12組に対し、応募が84組であるなど、非常に好評を得ています。父親にとって魅力ある内容にするために、内容面でも運営面でも工夫を凝らしており、こうしたことが評価される要因になっているのではないかと思います。参加者からの口コミで、新規応募者もどんどん増えています。



料理教室



七夕祭り

参加者の変化を目の当たりにするたびにやりがいを感じる

父子対象のイベントで特に感じるのですが、約3時間ほどのプログラムにも関わらず、イベントの開始時と終了時とで、父親も、子どもも、表情や態度が見違えるほど変化します。互いの距離がぐっと縮まっているのを見ると、「イベントをやって本当に良かった」とやりがいを感じます。

プログラムの中に、子どもから父親を褒める時間や、父親から子どもを褒める時間を設けるなど、仲を深めてもらう小さな仕掛けを数多くちりばめていることもあってか、参加者の劇的な変化が見られます。

父子で手をにぎりながら、にこにこ笑顔で家に帰っていく姿を見送っているとき、なんともいえない感覚を味わっています。

周囲との関わり

世代を超えたメンバーとの交流が大切

市民会議のメンバーには、50～60歳代の方がいて、この方々から子育てを含め、地域活動を進める上で様々なことを勉強させていただいています。この年代の方は子育て経験者が多く、既に子育てを終えて余裕のある方々です。対照的に、自分も含めて30～40歳代は、まさに子育ての真っ最中で、子育てに余裕がありません。父親の子育て支援を行っていく上で、ベテランの父親からの助けは非常に大きいと感じています。

直面した課題と解決方法

軌道に乗るまでは一苦労。しかし、今では応募者が殺到する人気イベントに

「柏崎オヤジ倶楽部～ぱぱだって～」を設立後、実際にイベントを企画しようと思ったとき、最初は何かから手を付けたらよいかわかりませんでした。このため、第1回目は手探り状態で、保育園の園長を招いて、子どもとの接し方や子どもの笑顔の引き出し方などのレクチャーを受けるという内容で開催しました。しかし、参加者の中から、「もっと楽しめるといいね」、「お酒のおつまみを作れるようになるといいね」といった声が上がったことから、イベントの内容を「料理教室」にシフトさせていきました。すると、参加者から高い評価を得て、今では応募者が殺到するほどの人気のイベントになりました。参加者の声を大切にしながら、イベントの内容を適宜、更新していったことが良かったと思っています。

応募者が殺到するために、落選者を出さざるを得ないことが、今、一番心を痛めている課題です。イベントの開催回数を増やせば対処できるかもしれませんが、ボランティアとして行っている活動なので費用の面からも回数の増加は難しいのが実情です。短期的な解決策は見出せていませんが、この活動を長く継続して行っていくことで、より多くの父親に参加の機会を増やしていければと考えています。

これからの展望

P T A会長として、父母で学校行事に参加できる体制づくりに挑戦したい

平成24年4月から、小学校のP T A会長を引き受けることになりました。学校行事のときに、父親も母親も両方が行事に参加できるように、小学校に「保育ルーム」の設置を働きかけていければと考えています。参観日に行きたいけれど、未就学児がいるからあきらめる人が多いですが、我が子の成長は一瞬、一瞬で変わるものです。その一瞬を見逃さないための手助けをすることが私の夢です。当然、自分一人では実現することはできないので、国などの助成などを得られるように働きかけていければと考えています。